

立教英國学院保護者会

- 1)9月学校再開について
- 2)英国の対応ガイダンス
- 3)英国の対応ガイダンスに従った、本校での対応
- 4)本校の対応についてのリスクアセスメントの作成(Health & Safety)
- 5)リスクアセスメントの保護者教職員への通知、HPでの公表
- 6)英国の感染状況
- 7)日本政府勧告
- 8)医学的見地
- 9)コロナウイルス対応 発症 グループ 審 授業 ICT
- 10)保健室より
- 11) 期末試験 成績について
- 12)事前にいただいた質問

英国政府方針

英国政府方針

9月にすべての児童・生徒を学校にもどす

コロナウイルス感染の状況低くなっている

自宅学習での児童・生徒の精神的ストレスの増大

英国政府ガイドライン

英国教育省より Guidance for full opening : schools 2 July 2020

<https://www.gov.uk/government/publications/actions-for-schools-during-the-coronavirus-outbreak/guidance-for-full-opening-schools>

学年を中心としたグループの形成

教員の教え方

教室の在り方、授業の在り方

それぞれのグループ間ではなるべく接触をしない

それぞれの学校で状況が異なるので、ガイドラインにすべて適合させる必要はない。

ガイドラインに沿いながら、各学校においては、可能な限りコロナウイルスの感染を最低限に抑える

英国の感染状況

総死亡数: 45,233 昨日よりの増加+114 週平均で+70程度 17th July 2020

総感染者数: 293,239 昨日よりの増加+687 PCR検査日本より多い

日本での感染者全国で 623 16th July

Surrey Waverley 総感染者数

308 1st July 2020

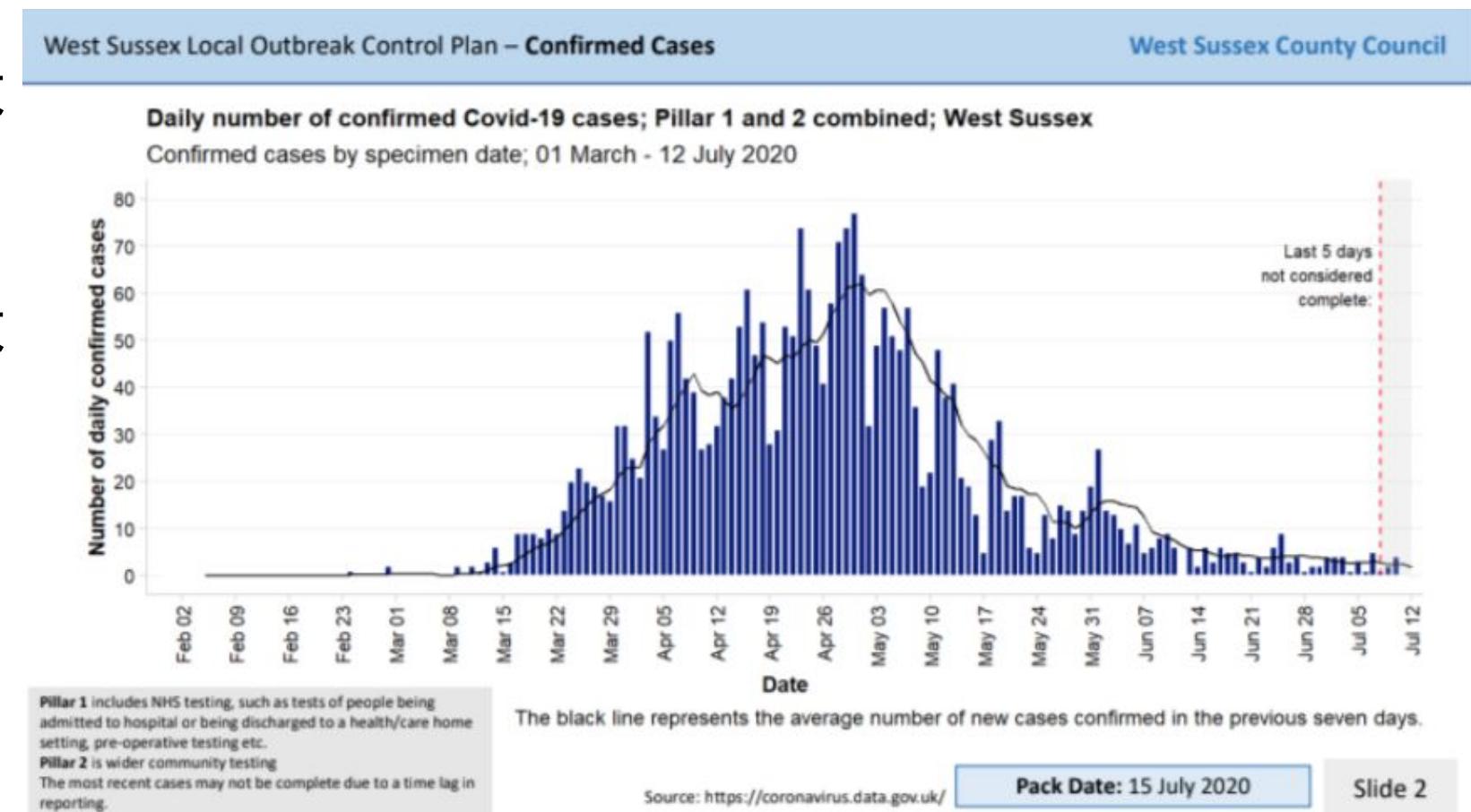
Surrey Guildford 総感染者数

387 1st July 2020

West Sussex グラフ

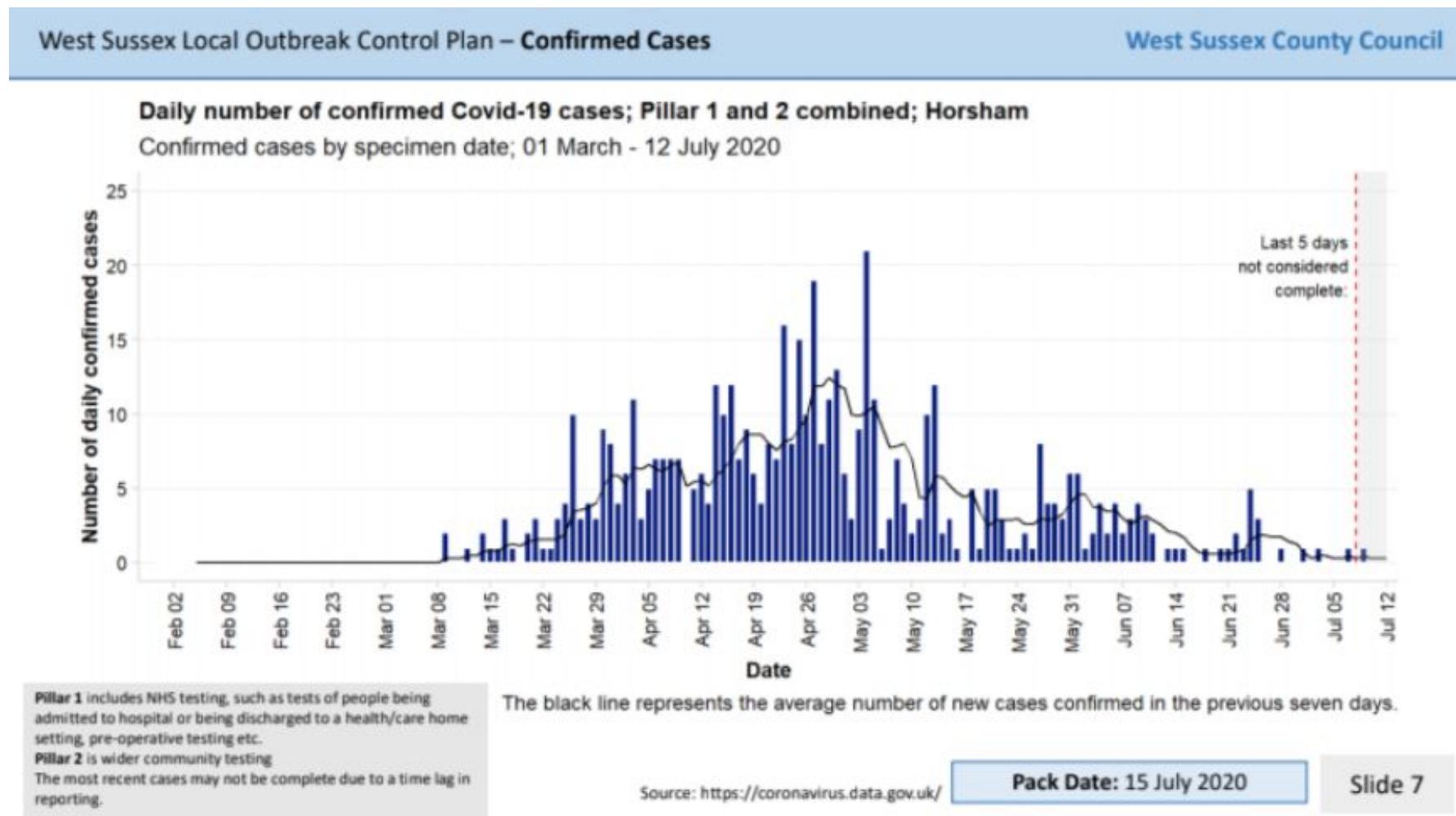
新たな感染者数

週平均 5名程度



Horsham 感染状況

West Sussex Horsham 感染者数グラフ 15th July 2020



日本政府勧告

7月17日現在

レベル3 渡航はやめて下さい(渡航中止勧告)

英国での、旅行保険、健康保険の利用の可能性の確認

アップデートを確認

学校としては、現在置かれている状況の中で、極力、ウイルスによる感染を少なくする方策を取る。(リスクアセスメントの重要性)

学校があるサセックス、ホーリーチャム地区、サリー州の感染状況

医学的見地

1 イギリスの現状

日本の感染者数が激増しつつあることは、NHKニュースなどでご存じのことだと思いますが、逆にイギリスの感染者数は、ここ1, 2週間500～700／日でおさえられています。英國では日本とは比べものならぬくらいPCR検査件数が多く、確実に軽症者も拾っているとすれば、現状では、英國の方が日本よりunder controlと言えるでしょう。大陸ヨーロッパ諸国でも、かなり安定して減っており、この時点での英國での寄宿学校も含む学校再開の判断は、医学的にみてもまず妥当と言えるでしょう。

医学的見地

2 問題は秋から冬にかけての第2波

しかし、問題は秋から冬にかけての第2波です。これについて、昨日のBBCで英國主席顧問も第1波よりも脅威になるだろうと予測していました。日本の公衆衛生関係者の多くも、日本を含む北半球諸国が、この秋から冬にかけて深刻な状態になることを、かなりの確度で予測しています。そして、そうなった場合、英國のNHSがどの程度その負荷に耐えられるか、という点については、昨日のBBCでのコメントのとおりで、懷疑的にならざるをえません。そうなると、クリスマスを挟んで、イギリスと日本の間を往復できるのか。11月、12月に大きな流行が起きてきた際、どの時点で帰国の判断が出るのか、また、その時に帰国できるのか。といったことを、やはり切実な問題と感じてしまいます。

コロナウイルス発症

学校での対応 今後感染状況を見ながら継続検討、リスクアセスメントにて検討
発熱、咳等の疑わしいケース

政府より学校に検査キット送付予定 キットで確認

コロナウイルス確定

隔離する部屋/ドミトリ一の設定 イーストハウスに隔離

男女は階で分ける。

その後の隔離等の対応についてはPHE(Public Health England)のアドバイス

感染の拡大を防ぐ意味での、学年別のグループの形成

他の学校の例

帰寮前PCRの確認(72時間前)

帰寮後PCRの確認

グループ(学年単位)での行動

主に4つのグループを基本に考える

高等部3年、高等部2年、高等部1年、小中学部

学年を超えての活動はなし

フライデースポーツ 学年ごとのスポーツ

食事は2交代制、体操を含む朝のスケジュールの見直し、放課後の使い方の見直し

礼拝も交代制

接触を含む運動の禁止(球技等)

それぞれの学年の中でのSocial Distanceの推奨

寮内でも、グループごとの行動

教員は異なるグループへの授業は可能であるが、生徒とのSocial Distanceを取る。

教職員からの感染の可能性

寮の配置について

寮の体制

可能な限り、学年をそれぞれの建物のフロ一別に配置

寮内での学年の接触がないように配置 階段を分ける。防火扉で分ける
トイレ、シャワーを分ける。 換気の励行

一例：

ガーデンハウス 3階 高校3年生 2階 高校2年生

ウエストハウス 小学校5年、6年、中学部2年

新館男子寮 3階 高等部3年生 2階 高等部1年生及び中学部1年生 中学部3年

防火扉で分離

1階 高等部2年生 出入り口で学年を分ける 時間差

本館 3階 高等部1年生 2階 高等部1年生+小学部 階段で分ける

1階 中学部

イーストハウス コロナウイルス陽性の生徒の隔離ブロックとして使用予定

授業

教室棟でもグループ(学年)間の接触がないように注意

Social Distanceを取ることの注意

廊下でのすれ違い

トイレの使用

廊下、階段 一方通行の実施、表示

時差授業、時間差のブレイク

帰寮日 12月5日を予定 中3は入試後12月13日に帰宅

感染状況によって、変更の可能性あり

オンライン授業 休暇中補習の可能性

最初の週は、余裕のある授業、休息がとれる。

余裕を持ったカリキュラム

ICT設備

ICT設備の充実

教室棟、理科棟、体育館、寮、食堂でのインターネット環境の整備

一人1台のクロームブック

1学期に培ったオンライン授業の維持と発展

課題学習、自習、質問、学年を超えたミーティング

家庭との間の連絡、カウンセリングの可能性(1:1ミーティングの見直し)

教室棟でのICT設備

主体的な学習を目指す

ペーパーレス化による感染予防

ICTを通した国際交流 講演会、現地校との交流、タンザニアプロジェクト

ルワンダプロジェクト、オープンディ

空港にて 帰宅帰寮について

9月5日帰寮便

運休便、予約が取りにくい状況

9月4日(金)から9月7日(月) 幅を持たせた帰寮

この日程以外の帰寮については、相談して下さい。

9月3日以前はドミトリー準備で入寮はできません。

日本にいる時から、英国空港に到着時もSocial Distanceを取ることを意識

学年ごとに集まっての行動

タクシー、コーチの手配 空港での待ち時間を短くする。

渡航前の健康状態に注意

疑われる症状がある場合、絶対に渡航は控える。

帰寮しての発熱例多数あり。

空港での発熱等のスポットチェックあります。

発熱等の症状によりにより隔離の可能性。隔離されたら、教員の手は届きません。

保健室より1

<学内での体調不良時の対応> 感染の状況、政府方針により変更の可能性あります。

- ◇Covid-19 の症状が疑われる場合、テストを受けていただくことになる。
- ◇結果が判明するまでは、本人および同グループの児童・生徒もドミトリーにて隔離。(テストは本人のみ)
- ◇結果が陰性であった場合は、同グループの児童・生徒の隔離は解除。本人も、症状が落ち着けば復帰可。
- ◇結果が陽性であった場合は、本人は最低 7 日間(症状が消失するまで)、同グループの児童・生徒は 14 日間、隔離継続。

※ Covid(+)の場合の隔離場所は East House を想定。変更の可能性もある。

保健室より2

<夏期休暇中のお願い>

◇夏期休暇中に、必要な受診等は全て済ませ、学期中に受診が必要となることがないように努めていただきたい。

帰寮後の受診は、病院の状況やマンパワーの観点から、今まで以上に難しいと考えていただく必要がある。(もちろん、緊急時は別)

※緊急でない歯科受診、休暇中からの体調不良等での受診が、毎学期多く発生しています。

◇解熱鎮痛剤や各種風邪薬などが熱や症状をカバーしてしまい、症状の見極めができにくくなることがある。薬の使用の仕方を、家庭でもしっかり見直していただき、薬で症状をごまかしたり、隠したりするないようにご指導いただきたい。

◇規則正しい生活を意識し、心身ともに安定した状態で帰寮ができるように努めていただきたい。

期末試験 成績について

期末試験

9月9日から9月12日まで

試験範囲については、後日、教務より送信

期末試験がありますので、通常学期の最初に行っている実力テスト、模擬試験はありません、

成績について

高校3年生は期末試験の結果と1学期のインタラクティブ授業の提出物などから1学期の成績を算出する。

他の学年は、期末試験の結果と1学期のインタラクティブ授業の提出物、2学期の期末試験、提出物、授業中に行う小テストなどを総合的に考え、2学期に成績を付ける(インタラクティブ授業だけによる成績は付けない)

事前にいただいた質問

授業再開時期について

1)9月初めという対面授業再開時期について

英国政府の方針ということで、ネット情報などでも多くの語学学校などが、8月中の対面授業再開を予定していることがわかります。時期としては、現時点では適当と考えますが、英国国内でもやや地域差があるようで、英国人の知人から聞いた話では、エジンバラのPublic School? Independent Schoolは、9月再開に慎重とのことですし、幾つかの大学では、9月以降もかなりの講義をOn lineで行うと決めたよう

うです。立教英国学院は、イングランドのPublic Schoolなど他の寄宿制学校とほぼ同じ基準で考えているとみていいのでしょうか。

2)9月の帰寮にあたり、現時点におきまして正直なところ不安がございます。

引き続きオンライン授業等に参加できる選択肢を設けて頂く事はできませんでしょうか。

3)オンライン授業の選択などの別の対応もあるのでしょうか？

事前にいただいた質問

マスクPPE

- 1) 日本の学校は学校生活でマスクの着用を求められていますが、
御校でもその様な対応になるのか。
また、その場合はそのためのマスクは持参しなければならないのか。
- 2) 授業中の マスクの着用されるのでしょうか
- 3) イギリス人の職員の方も マスクを着用して頂けるのでしょうか

寮 部屋

- 1) 学校でのコロナ対策として 換気は、されるのでしょうか

事前にいただいた質問

持ち物について

- 1)マスク、消毒液(アルコール)、使い捨てコム手袋、等 (アルコールは問題あり 火災の危険あり、 まずないと思いますが飲酒の可能性もある。英国で入手困難な物を持たせたい)
- 2)9月から帰寮予定とのことですが 年間予定表を拝見させていただきますと 12月初旬ごろ帰宅とのことです、今回の持ち物といたしましては秋・冬服を準備していくと思われますが イギリスの11月～12月ごろは5°～11°くらいとネットで拝見しました。在校生の方々はダウントン(コート)など1枚厚手のコートを持ってきているのでしょうか？

事前にいただいた質問

PCR検査

- 1) 渡航前 PCR検査が必要でしょうか。何日前の検査から有効か
- 2) 帰寮時の英国入国について 2週間の自主隔離は解除されたようですが、日本出発時或いは英国入国時のPCR検査等は必要ないのでしょうか？
- 3) 今感染拡大中の地域もあり空港の検疫も心配です。

事前にいただいた質問

隔離/入院

- 1) 新型コロナに感染をした場合、隔離病棟で隔離とありましたが、こちらは、学校ではない近隣の病院なのか。
- 2) 隔離された場合、私共は子どもたちの状況を知ることが出来るのか。
- 3) また、息子にそれ程、英語の能力がないと思われるので、病棟内での医師たちとのコミュニケーションは本人任せになるのか。
- 4) 毎年帰寮時に疲れからか熱を出しております。今年は特に新型のウィルスの件もあり熱を出すような事がないか？有ればどうなるのか大変心配です。
- 5) **隔離後の差別**などは大丈夫でしょうか？

事前にいただいた質問

治療負担/保険

1)新型コロナに感染した場合、治療に関する費用負担は現在、どの様になっているのか？
(予め任意で留学用の保険に入るなどした方がよいのか)

学校生活

1)グループ分けされた以外の他の学年との交流は完全に無くなってしまうのか？
食事の際などの高校生などの先輩との交流を楽しみにしていたようです。

事前にいただいた質問

寄付

1)学校側からも 共用で使用する物、提供して欲しい物を 提示していただきたいです。仮に提供品募集で 1品だけに集中しない様に コントロールして頂いた方がよいのですが コントロールは、父母会? 数字を投げていただければ 役員ではありませんが、お手伝いの集計は致します。

帰寮確認日程

1)帰寮日確認メールが届くと思いますが お待ちしています。

2)帰寮時 服装について 特に日本の空港において 制服だと目立ちますので空港内のみ 私服対応検討お願いいたします(ブレザー非着用)

事前にいただいた質問

渡航中止勧告 危険レベル

1) 渡航中止勧告との関係について

英国に対しては現在、外務省よりレベル3の渡航中止勧告が発出されており、通常であれば渡航させてはいけない状況にあると思っています。

子供を英国に送り出すにあたり、保護者としての責任もあることから不安に思っているところです。 については、子供を送り出すにあたり、何かしら担保となるようなもの(例えば、すでに留学している学校への帰国であればやむをえないものとして例外的に許容される等)があれば少しばかり安心できると思います。外務省や文部科学省、日本大使館などの政府機関からの情報、あるいは学校側が日本の関係機関と調整を行った際に示された方針などの情報があれば教えていただきたいと思います。

事前にいただいた質問

日本への帰国

1) 冬休みの日本帰国について

2) 2学期の終了は予定通り12月5日でしょうか？

3) 冬休みの日本帰国の際には、空港でPCR検査の実施と陰性の場合でも2週間の自主隔離措置が必要になります。私自身も海外勤務からの緊急帰国の際にこの措置を受けましたが、行動制限を受けることに加えて、万が一陽性反応がでてしまった場合のリスク管理（住所地に戻ってしまうと住所地のマスコミで報道される恐れがあるため、PCR検査の結果ができるまで空港近くのホテルで待機）や検査結果を待つ間の精神的な不安などかなり大変な思いをしました。このようなことから、この措置が冬休みにもまだ継続されている場合には、可能であれば、日本に帰国させずに英国で冬休みも過ごさせた方がよいのではないかと思っているところです。

4) 休暇時の日本帰国の扱いについて考え方を教えていただきたいと思います。

事前にいただいた質問

Chromebook 購入について

- 1) 高3は使用期間が3ヶ月程度(最長でも半年)になるものと思いますが、やはり購入する必要があるのでしょうか？現在息子が個人的に使用しているものでは、やはり管理運営上問題があるのでしょうか？また購入した場合、卒業後に日本で普通にPCとして使えるのかどうか、或いは再度初期化等が必要となるのかどうかも合わせてお願い致します。
- 2) 日本のオンライン講義(塾など)を受けることは可能でしょうか？

空港送迎

- 1) 航空券が変更されたことで、9月6日(or9月4日)到着になる場合、ヒースロー空港への迎えは無いということでしょうか？

事前にいただいた質問

期末試験

1) 休み明けの実力テストについて、テスト範囲を教えていただきたいです。

イギリスの医療制度

1) イギリスの医療制度にも不安があります。

学校での対応

1) **長引く休校後、コロナ禍中の帰寮により、不安やストレスが心身に影響しないか？制約がある生活の中、先生に相談できる機会が減りそうで心配です。**

学期の短縮

日本では帰国後の自宅隔離もあります。帰寮の期間を短くする。

事前にいただいた質問

2学期の終了時期や帰国予定など

先月、日本の医学生向けの冊子に書いたものを添付いたしますが、かなりの確率で晩秋から初冬にかけて、第2波、第3波がやってくると思われ、場合によっては、その場合第1波よりも被害が大きくなるかもしれません。この場合、英国内はかなり混乱し、2学期を早めに切り上げての帰国といった事態も想定されます。(もちろん、その逆の日本の方が大きな混乱をおこしていると事態も当然想定されます

が) といったことを考えますと、2学期終了後の帰国便につきましては、オープンチケットにするか、変更が容易なやや高いチケットの購入が望ましいのでしょうか。また、どのくらいの蔓延状況(これは誰も返答できない問題だとは思いますが)になったら、再度の学校閉鎖や学期の打ち切りといった判断になるのでしょうか。このあたりは、帰国しなければならないということを考えますと、地元のPublic Schoolと同じでいいのかという疑問があります。

事前にいただいた質問

- 1) 今後刻々と変化する状況によるとは存じますが、学期留学や提携されている英国の大学進学についての現在の学校の方針をお知らせ下さい。
- 2) 万一感染した場合、PHEと連携して対応とのことですが、具体的に現在イギリスではどのような対応がとられているのかお知らせください。
- 3) 授業開始後、校内寮内にてマスクを常時着用の予定でしょうか。その場合、必要分のマスクを持参させる必要があるでしょうか。
- 4) 感染防止のため、以前よりも校内の消毒や清掃が必要になるかと存じますが、どの程度の内容をどのくらいの頻度で行う予定でしょうか。